

## 第5章 この実例集で使う測定値の内容

ここでは、以降の実例において示す測定値が、何を意味しているのかを簡単に解説します。

### 【土壌の化学性に関する項目】

**有機物濃度**：乾燥させた状態の土壌に含まれる有機物の濃度です。

**窒素濃度**：土壌の窒素の濃度で、この値が高いほど地力が高いと言えます。

**EC（電気伝導度）**：土を水に懸濁した液の電気の通りやすさを測定したものです。土壌の塩類の濃度の目安になります。

**CEC（陽イオン交換容量）**：土壌が保持できる陽イオンの量を測定したものです。この値が高いほど保肥力のある土壌です。

**塩基飽和度**：土壌が保持できる塩類の量（CEC）に対して、どの程度を、石灰、苦土、加里などが占めているかを測定したものです。値が低いと栄養塩不足、高いと塩類過剰の状態です。この値の大きさが石灰>苦土>加里の順になっている状態を、多くの作物は好みます。

### 【土壌の物理性に関する項目】

**三相分布**：土壌の固相（土）、液相（水）、気相（空気）の体積の割合です。固相が少ないほど隙間の多い軟らかい土壌です。液相と気相は、土壌を採取したときの水分によって変化するため、同じ日に採取した土壌間でしか比較できませんが、気相が大きいほど排水性が良い土壌です。

**仮比重**：土壌を乾燥させたときの密度です。この値が低いほど、軟らかい土壌です。

**粗孔隙**：土壌の隙間の中で、水分が保持されない隙間の割合です。この値が高いほど排水性が良い土壌です。正常な栽培のためには、最低でも10%以上必要で、15%以上あることが望ましいです。

**易有効性水分**：土壌が保持できる水分の中で、植物が容易に利用できる状態の水分です。この値が高いほど、保水性が良い土壌です。

**硬度**：土壌の硬さを示す値です。この実例集では、中山式硬度計を用いた測定値を掲載しました。値が低いほど、軟らかい土です。